

私立 別府大学

取組名称 **全学的・体系的な就職支援・キャリア教育を目指す総合対策プラン**

取組担当者 **文学部 教授 利光 正文**

1. 本学の概要

別府大学は、1908(明治41)年大分に豊州女学校として創立され、第2次大戦後に別府女子大学を設立し、1954(昭和29)年に男女共学の大学となった。

現在は、別府キャンパス(本部)に文学部3学科、食物栄養科学部2学科、新設の国際経営学部1学科、大学院2研究科(文学研究科・食物栄養科学研究科)及び別科日本語課程を有するほか、大分キャンパスに短期大学部を有し、東九州の地方大学の中核として3,064名の学生が学んでいる。

また、本学は、創設時から半世紀以上にわたって文学部だけの単科大学として、社会の変化への対応と新しい大学の在り方を求めて、ひたすら文学部教育の充実と発展を目指してきたが、2002(平成14)年に食物栄養学部を設置し、2009(平成21)年に文学部を改組するとともに国際経営学部を新たに設置し、現在は3学部体制となっている。

本学では、創設時から建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づいて学問研究の目的を何よりも真理の探究に求め、大学教育の目的を、真理を求め知識を愛する豊かな教養をもった自由な人間の育成にみる人文主義的な教育理念に置いている。さらに本学の個性や特色として、地域に根ざした教育・研究の推進と地域への貢献と国際交流の推進を目標に、学術研究と人材育成に取り組んでいる。

2. 本取組の概要

本取組は、学生に企業で通用する基礎能力を修得させ、併せて就職に対する主体的態度を養うことを主旨としている。具体的には、社会人として身に付けることが求められる様々な基礎能力を高めるための「キャリア教育講座」を学生や企業のニーズを踏まえつつ展開するとともに、4年間の学士課程教育の中で社会人基礎力を確実に養成し得るよう「学士力・キャリア教育向上FD研修会」を行い教員の授業能力を向上させ、

「先進事例校調査」と併せて体系的なキャリア教育を組み込んだカリキュラムの改善を目指す。また、学生の就職意識の向上と情報収集の機会を増やすため、「学内合同企業説明会」を拡充し実施、併せて大分県内外で「就職支援相談会(進路懇談会)」を行い保護者と学生への就職支援活動を強化する。さらに、就職支援用事務補佐員を配置しプログラムの効果的な実施に努めることとしている。

3. 本取組の趣旨・目的・達成目標

本補助事業は、本学の就職支援を早急に充実させ、学生の就職活動を指導・支援する体制を充実、強化することを目的とする。また、この事業を通じて、キャリア教育及び授業改善に取り組み、企業で通用する社会人基礎力を学生に修得させるとともに、学生の就職に対する主体的態度を涵養することを目的とする。具体的な内容は以下のとおりである。

(1)「キャリア教育講座・各種対策講座」の実施

この講座は、3年次生を中心に「公務員就職講座」を「基礎力養成講座」と「実践力養成講座」の2期間で長期的に実施する。さらに、「SPI試験対策講座」や「常識問題対策講座」を集中的に実施するとともにその基礎となる「言語リテラシー講座」と「数的リテラシー講座」は、春季休業中に実施する。

これらのキャリア教育講座は、社会人として必要な基礎学力の向上を図ることを趣旨に、学生一人ひとりがそれぞれの自己実現を達成するための各種対策講座に参加し、その希望を実現することを目標としている。

(2)「就職支援相談会(進路懇談会)」の開催

これまで、本学の別府キャンパスのみで実施している保護者との進路懇談会については、より充実した就職支援とする目的で3年次生の全保護者を対象に、県外主要都市5会場(福岡、熊本、宮崎、長崎、鹿児島)において拡大し実施する。

最近の学生の地元志向が強まる中で、大卒の就職活動の動向とその現実を保護者にも情報として提供するとともに保護者と学生との考え方の相異は、これからの就職活動の障害となることも予想されることから、この会の開催を企画した。

(3)「学士力・キャリア教育向上FD研修会」の実施

これまで学内で実施してきた通常のFD活動に加えて、全教職員を対象に学士力の向上と就職支援の指導力の向上、さらにキャリア教育への意識の深化を図るための研修会を実施する。

その目的は、教職員のキャリア教育に対する意識の向上のみならず、授業改善に伴う学士力の向上と就職支援に対する指導力を向上させるための知識と技術を修得させることと考えている。従って、この研修会の参加とともに、教職員一人ひとりが学生に対して、どのように就職支援に関わっていくべきかを考え、それを実践していくことが達成目標となる。

(4)「定着指導・情報収集のための企業訪問」の実施

本学では、例年3月に卒業した学生の就職先の企業を6月から実際に訪問し、卒業生に直接会って定着指導をすることを過去10年間実施してきた。

特に、大分県内の企業を中心に訪問してきたが、県外の卒業生からも是非実施してもらいたいとの声もあり、今年度は可能な限り実施していくつもりである。

(5)「先進事例校調査」の実施

最近の大学改革とキャリア教育の充実に伴って全国的に情報を収集することは急務と考えている。従って、優れた就職支援活動を展開している大学を直接訪問し、その内容を研究し取り入れることによって、本学の就職支援の在り方を格段に改善することを目指す。また、その調査結果については、FD研修会を通じて報告し、全教職員の共通理解による実践化を図る。

(6)「合同企業説明会（福岡市）」への参加

本学の学生は、地元志向が強く、九州内の出身者が大半であることから福岡市で開催される大規模な「合同企業説明会」に参加する。この説明会に参加することにより、学生の九州内での就職先の選択幅を拡大させ、学生が志望する企業への就職の可能性を高めることができる。特に、九州内での「合同企業説明会」は、全て福岡市に集中しており、それを受けて各県でも地方会場として実施している。特に、学生には福岡市で

開催される大規模な「合同企業説明会」に参加することにより、就職活動の現実の厳しさを感じさせることも目的としている。

(7)「学内合同企業説明会」の実施

これまで本学では、3年次生を対象に例年学内での企業説明会を実施してきた。学生は、多くの企業の採用担当者と学内で直接面談し、企業側からの説明等を受けることにより、自分の就職活動の幅を広げ、学生と企業との関係を深めることができる。また、本学の学生の実態と大学の就職支援の取組を、企業側へPRするなどの効果が期待できる。

特に、学生にとっては、企業側の採用担当者と直接面談する最初の機会であり、学生の就職活動のスタートとしての意識を深めることの意義も大である。

(8)「就職支援用事務補佐員」の配置

現在、進路情報センターでは3名の職員で学生の就職支援に当たってきたが、補助事業の充実を図るために専用の事務補佐員を1名雇用する。特に、就職支援に伴うキャリア教育や授業改善の基礎的な資料の作成、学生の相談・情報の提供等の補助的な業務を目的に行う。また、就職支援に伴う各種のデータ処理を行うことにより、最新の求人情報等について迅速に学生に提供できるとともに、進路情報センターのスタッフの充実により、常に学生への相談に応じる体制を構築できる。

(9)「就職支援評価委員会」の設置

本補助事業の報告書を作成し、今年度の反省と次年度に向けての事業実施の改善等について評価を得る。本補助事業は、学生への直接の影響や成果の出る事業であり、学生にとって重要な進路実現を可能にすることから、評価委員会の評価を得て効果の高い取組を行うべきと考えている。

4. 本取組の具体的内容・実施体制

(1)「キャリア教育講座」の実施

(i) 常識問題対策講座

最近の民間企業の一次試験は、大半が「常識問題」として筆記試験を実施している。特に、今年度のような就職戦線の厳しい時には、この試験の得点が一次試験の結果となっている。その対策は急務と考え、その対策講座を開講した。その日程と参加者は、第1回は、

10月17日(土)に参加者は61名、第2回は、10月31日(土)に参加者は49名、第3回は、11月14日(土)に参加者は43名であった。

(ii) SPI対策講座

SPIとは、直訳すると「総合的な個性・性格評価」で、一般的に検査される能力は、端的に言うと仕事において求められる業務処理・判断能力である。その対策としては、短時間に多くの問題を解く訓練が必要である。その日程と参加者は、第1回は、10月24日(土)に参加者は72名、第2回は、11月7日(土)に参加者は38名、第3回は、11月28日(土)に参加者は44名であった。

(iii) 公務員就職講座

本学の学生は、民間企業と同様に公務員志向が強く、各種の進路希望調査の結果からもその対策講座は必要と言える。今回は公務員受験対策の専門学校の協力を得て、講座を設定した。その実施内容は、基礎力養成講座期間を毎日、放課後に開講し、その中心は教養試験のポイントとその整理・まとめとしている。さらに教養試験の分野に加えて、専門試験の分野を中心に実際問題の研究を本試験問題に触れる応用力の対策とする実践力養成期間としている。なお、現在、多くの学生が連日夜間に放課後の時間を活用して頑張っており、来年度には、かなりの成果が出るものと期待している。

(2) 「就職支援相談会(進路懇談会)」の開催

「就職支援相談会(進路懇談会)」を学生の出身地に出向いて開催した。最近、少子化により地元志向が強く、このような状況から、保護者のための就職活動への理解と協力の必要性を痛感して企画した。

実施状況は、10月18日(日)に、福岡市と長崎市において実施、福岡市の参加者は27名、教員は9名、長崎市の参加者は15名、教員は6名参加、10月25日(日)に、熊本市、宮崎市、鹿児島市において実施。熊本市の参加者は20名、教員は7名、宮崎市の参加者は19名、教員は7名、鹿児島市の参加者は13名、教員は4名参加した。なお各会場ともに、全体説明で、現在の大学卒業予定者の就職活動の動向と本学の就職状況について、特に学科別の個人面談については、保護者が1名の参加であっても、担当教員は必ず学科担当1名は参加することとした。また、保護者からは、大学の先生と直接に話す機会を得て大変感動したことや、学生が出身地に帰省し、両親とともに参加するなど実施前には予想できない成果が得られたと感じている。特に、

10月3日(土)に実施した本学内の会場には、保護者126名と学生310名が参加した。全体会で卒業生の就職状況と今後の取組について説明し、4年次生の就職内定者3名による「就職活動体験報告」、さらに保護者へのキャリア教育を目的に外部講師による「大卒の就職活動と地元就職について」の講演、その後、学科別に、学生と保護者及び担当教員の三者による面談が実施された。特に、保護者からは、詳細な説明や内定者から大変良いアドバイスをもらって大いに参考になったとの声が多数聞かれた。

(3) 「定着指導・情報収集のための企業訪問」の実施

これまで本学の定着指導の目的は、卒業生が大分県内に就職した企業を中心に訪問し、新規の求人を得るなど多くの成果を得てきた。この定着指導は、例年大分県内の企業を中心に訪問していたが、是非県外の企業も訪問してもらいたいとの声があり、同窓会の協力を得ながら本年は拡大し実施した。大分県内の企業は、例年通り40社程度であるが、それに加えて県外の企業を加えて60社を訪問した。

実際に企業を訪問してみると昨年と比較して景気動向の厳しさを実感した。特に、大分県内の中小企業は、これまで経験したことのない不況の声が強く聞かれた。

(4) 「合同企業説明会(福岡市)」への参加

本学の学生の出身地は、大半が九州内であり、就職希望も地元志向が強いことから、例年福岡市で開催される「合同企業説明会」へ参加している。

特に今年度は、例年より開催が早く、12月から大規模な説明会が福岡市内で開催されており、参加したバスの台数は、12月1日(火)＝2台で参加者は75名、12月2日(水)＝1台で参加者は36名、12月19日(土)＝2台で参加者は85名、12月20日(日)＝3台で参加者は130名、さらに2月9日(火)＝2台の合計10台を予定している。なお、新聞報道によると就職活動のスタートとなった12月1日(火)実施の会場には、大学3年次生の約23,000名が福岡市のヤフードームに埋まったと報じている。また、本学から参加した学生の主な感想として、「会場に入った時、参加者の多さに圧倒されたが、この中で内定をもぎ取らなければならないと思うとモチベーションが上がった。」「あらかじめ主催者側のHP等で興味のある企業をピックアップしていたため、効率よくまわることができた。しかし、どの企業ブースにも人だかりができており、事前に準備し

ていた質問ができなかった。」などであった。

(5)「就職支援用事務補佐員」の配置

10月から本学の卒業生の男性を1名配置した。年度途中であったが本人も意欲的に毎日事務処理に取り組んでおり、データ処理や起案に関する事務処理、さらに報告書の作成など多くの事務量を忙しく処理している。本人は、大変パソコン操作に優れた知識と技術を有しており、関係者として優秀な人材が確保できたと安心している。このような補助事業には、本学の実態を把握している者が、その事務処理を行うことが最善であると言える。なお、学生とも就職等に関する相談に応じるなど学生からも信頼されている好人物であり、今後が期待される。

(6)「学士力・キャリア教育向上FD研修会」の実施

本学の通常のFD活動に加えて、全教職員を対象にいわゆる学士力を向上させるための授業改善についても研修の目的とするとともに、就職支援の指導力やキャリア教育の意識の向上を図るための研修も行う。なお、実施日時と実施内容は、次のとおりである。12月25日(金)に実施し、内容は、本学の就職状況と今後の取組、本補助事業と本学の取組、さらに、外部講師による「教職員による就職支援への取組」についての講演がある。なお、年度内に合計3回の実施を予定している。

5. 本取組の評価体制・評価方法

本補助事業の評価については、各年度毎に評価することを原則とする。具体的には、「就職支援評価委員会」からの事業に対する改善等についての意見を得て、次年度への取組とする。また、各種の事業、「学内企業説明会」、「就職支援相談会（進路懇談会）」等については、その参加者すなわち企業関係者や保護者から直接の「聞き取り調査」等により、次年度の改善策として生かすなどの評価方法をとる。特に、学生に対しては、本補助事業に関する全講座、行事等直接参加した事業毎の「アンケート」を取り、それをまとめて報告書を作成し、評価委員会の評価を得て、次年度への改善策として取り組む。

6. 本取組の実施計画等

今年度の本補助事業における今後の取組の具体的な

内容については以下のとおりである。

(1)「学内合同企業説明会」の実施

本学は、例年2月上旬に大分県内の企業を中心に40社程度の協力を得て学内の企業説明会を実施してきた。本学の卒業生の就職先の企業を中心に、学生への面談指導のお願いも兼ねており、かなりの成果を得て、企業側の採用担当者からは、学生の動向を知り企業の採用計画の資料や情報を得る機会となったとの声もある。

特に、今年度は2月4日(木)に、体育館全面を使用して、100社程度の企業等を招いて大規模に実施する。これまでの参加企業に加えて今年度から新設された国際経営学部を進路先に配慮して、より多くの業種の協力を得て実施する。学生は、3年次生全員とし、体育館には各企業毎のブースを作り、自分の興味、関心のある企業の採用担当者等から直接企業の説明や採用に関する情報を聞くことにより今後の就職活動のスタートとする。

(2)「先進事例校調査」の実施

本学は、文学部だけの単科大学から食物栄養科学部を加え、さらに国際経営学部を設置し、総合大学への道に向けて学生の進路の幅は一段と拡大している。このような状況から本学の就職支援の在り方を根本的に改善する必要から、優れた就職支援活動を展開している大学を直接訪問し、本学の就職支援の改善策を研究する。その結果をまとめて、毎月開かれている「定例就職委員会」に報告するとともに「学士力・キャリア教育向上FD研修会」を通じて本学の就職支援の在り方を格段に改善することを目指す。

(3)「言語・数的リテラシー講座」の開催

これまで実施してきたキャリア教育講座の「常識問題対策講座」や「SPI対策講座」の結果から、特に重要と考えられる分野の言語及び数的問題を基礎から学習させる必要があると判断してこの講座を設定した。

実施期間は、春季休業中で、内容は数的問題と言語問題の基礎的・基本的な問題を徹底的に研究する。

(4)「就職支援評価委員会」の開催

本補助事業の実施に当たっては、より充実した事業内容とする目的から一定期間の報告書を作成し、実施後の反省と改善等を求めて、評価委員会の評価を得る。

なお、今年度の反省は、次年度に向けての事業実施の改善等に生かすことを目的とする。